

## アカンヤん！大正川に広がっていたミズキンバイ

西堀智子・久米卓美（和亀保護の会）

石山郁慧・有馬幸男・今田広之（川いい会）

中井克樹（琵琶湖博物館）

和亀保護の会は大阪府茨木市・摂津市を流れる大正川（下流から約4kmの区間）で通年カメ類の調査を行なっているが、2020年5月24日、調査区間の最上流部で調査中、これまでに見覚えのない水草が繁茂しているのを発見した。その形状から特定外来生物オオバナミズキンバイかと思われた。そうであれば大変だと即日琵琶湖博物館の中井に相談し、また同じ川で活動する川いい会のメンバーに声を掛けた。1週間後三者で改めて観察を行ない、発見場所より上流側に生育していることを確認した。また中井から、花卉が小さい・茎に毛がないなど琵琶湖に生息するオオバナミズキンバイと違った点が見られるとの指摘があった。その後、供給源がどこか川を遡って調査を行なったところ、支流の新大正川で次々と群落が見つかったが、最も上流で見つかった群落は供給源とは言い難い小さなものであった。一方、今回見つかった水草がオオバナミズキンバイではなく、絶滅危惧種の在来種ミズキンバイであることが中井より報告された。ただしミズキンバイは関西には分布しないとされ、大正川では国内外来種となる。

新大正川の最上流部は暗渠を挟んで万博記念公園の日本庭園に繋がっており、茨木市環境政策課を通じて問い合わせたところミズキンバイが育てられていることが分かった。周辺に供給されるような場所が他にないため、何らかの理由で日本庭園のミズキンバイが逸出したと考えられる。なお大正川には関西各府県で絶滅危惧のアサザも生育するが、これも万博記念公園からの逸出だと言われている。

大正川においてミズキンバイは以下の地図に示したような広がり方を示したが、川のほとりにある葬儀会館の関係者への聞き取りによれば、前年ミズキンバイが川を覆って流れを妨げたので刈り取ったとのことであった。我々が発見した場所のミズキンバイも前回の調査時には気が付かない程度だったと考えると旺盛な繁殖力であることが推測される。放置すれば大正川の治水面でも自然環境に対しても大きな影響を与えるおそれがあるため駆除の必要を強く感じた。

そこで茨木土木事務所にゴミ袋の提供を受け、8月と10月に和亀保護の会と川いい会で特に大きな群落のある箇所でのミズキンバイの駆除を行なった。またそれぞれの会の本来の活動場所である下流にミズキンバイが根付いていないか、活動のたびに調査・駆除を行なった。8月と10月に駆除した場所で再生していないかの確認も11月に行った。小さな群落ではほぼ再生はなかったが、大きな群落、特に蛇籠の上に広がっていたものはほぼ同じ大きさにまで回復していた。今後本来の活動をおこないつつ、ミズキンバイがこれ以上広がらないようにするためどうしていけばよいか、模索していかなければならない。



ミズキンバイ発見場所



ミズキンバイ群落